

できる？できない？聞き分けかるた（can と can't の音）

領域・形態・時間	聞くこと 3～4人グループ 15分
ねらい	I can と I can't を聞き分けて、取る／取らないを決める。can（弱く短く）と can't（強くはっきり）の音のちがいを、耳と手で覚える。

やり方 この流れでやってみよう

- 1 Spread the 16 cards.
絵カード16枚をグループのまん中に広げる
- 2 Listen. I can play the piano.
先生が文で読む。can（できる）ならカードを取る
- 3 Careful! I can't play the piano.
can't（できない）なら取らない。両手をあたまの上でバツ！
- 4 Oops! One turn rest.
can'tなのに取ってしまったら、次の1回はお休み
- 5 Say it together!
取れたら全員でその文をもう1回言う（I can play the piano!）

can と can't の音（先生も子どもも、ここだけ覚える）

I can swim. → can は弱く短く「クン」。すーっと通りすぎる

I can't swim. → can't は強くはっきり「キャント」。さいごに息をピタッと止める

よみあげ文 この順にそのまま読む（1文2回・間3秒）

1回戦 (can だけ)	I can swim. → I can sing. → I can ride a bike. → I can draw. → I can cook. → I can run fast. → I can play the recorder. → I can clean the room.
2回戦 (can't 登場)	I can jump high. → I can't play the guitar. → I can play badminton. → I can't ride a unicycle. → I can wash the dishes. → I can't dance. → I can do kendama. → I can play the piano.
3回戦 (スピード戦)	間を2秒に。can't を4回混ぜて、残りは1・2回戦の文から自由に。最後の1枚は先生の「ほんとうのこと」で締める（例：I can't ride a unicycle. — 先生も取れない！）

太字の can't は、読むときに少しゆっくり・はっきり。3回戦だけスピードを上げると、耳が can't をさがしはじめる。

ルール

（子どもへ）①手はあたまの上からスタート ②取ったら、その文をまねして言うまでが1点 ③can't のときに取ってしまったら、だれも責めない（1回お休みするだけ）

☆レベルアップ！

チャンピオン戦は「読み手を交代」。グループの1人が先生役になり、can / can't を自分で選んで読む。読み手も1文言えたら1点。

先生へ（運用のコツ・中間指導）

- ・読み上げは必ず文で。単語読み（piano!）にすると can / can't の聞き分けという肝が丸ごと消える
- ・ can't で取ってしまう子が多いのは正常。1回戦は can だけにして「取る快感」を先に作り、2回戦で裏切るのがこの設計の狙い
- ・ ◎第2時は記録なしの時間。全員が声を出して文をくり返しているかだけ見る